

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

Japanese Utility Model Unexamined Publication No. 6-73026

CORRECTION TAPE TRANSFER TOOL

[Abstract]

[Purpose] To allow a correction tape transfer tool for transferring a correction agent (1a) applied on a correction tape (1) onto the surface of a piece of paper and the like to be firmly held by the hand, the efficiency of the correction operation being improved.

[Construction] A transfer head retaining portion (50) that is changeably angled in a direction of twist of a transfer head (20) is provided at an end of a main body case (10), the transfer head (20) at an opposite end of a distal end thereof being attached to the transfer head retaining portion (50).

(10) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平6-73026

(43) 公開日 平成 6 年(1994)10月11日

(51) IntCl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 H 35/07	D	9037-3F		
B 4 3 L 19/00	H			

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願平5-14954

(22) 出願日 平成 5 年(1993) 3 月30日

(71) 出願人 000005857

三菱鉛筆株式会社

東京都品川区東大井 5 丁目23番37号

(72) 発明者 小林 司

東京都品川区東大井 5 丁目23番37号 三菱
鉛筆株式会社内

(74) 代理人 弁理士 笹井 浩毅

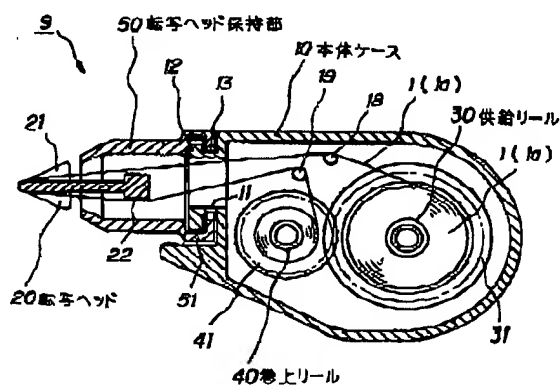
(54) 【発明の名称】 修正テープの貼付具

(57) 【要約】

【目的】 修正テープ (1) に貼付された修正剤 (1 a) を紙面などに貼りつけるための修正テープの貼付具の保持性を良好とし、修正作業の能率を向上させる。

【構成】 本体ケース (10) の一端側に、転写ヘッド (20) をねじる方向に角度変更可能な転写ヘッド保持部 (50) を設け、転写ヘッド (20) は基端側において転写ヘッド保持部 (50) に取り付ける。

図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 修正テープに貼付された修正剤を紙面などに貼りつけるための修正テープの貼付具であって、

本体ケースと、

該本体ケースの一端側に先端を突出させて設けられ、修正テープを紙面などに向って押圧するために、前記先端に修正テープが折返状に巻回される転写ヘッドと、前記本体ケースに収納され、胴部に巻き付けられた修正テープを前記一端側に繰り出して前記転写ヘッドに供給する供給リールと、前記本体ケースに収納され、前記供給リールに連動して回転して、前記転写ヘッドにより紙面などに押圧された修正テープを胴部に巻き取る巻上リールとを備え、前記本体ケースの一端側には、前記転写ヘッドをねじる方向に角度変更可能な転写ヘッド保持部が設けられ、前記転写ヘッドは基端側において前記転写ヘッド保持部に取り付けられていることを特徴とする修正テープの貼付具。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の一実施例を示す側断面図である。

【図2】 本考案の一実施例における本体ケースの正面図*

*である。

【図3】 本考案の一実施例における転写ヘッド保持部の断面図である。

【図4】 本考案の一実施例の作用を示す側面図である。

【図5】 本考案の一実施例の作用を示す斜視図である。

【図6】 本考案の一実施例の作用を示す側面図である。

【図7】 本考案の一実施例の作用を示す斜視図である。

【図8】 従来例を示す側面図である。

【図9】 従来例の動作を示す側面図である。

【図10】 従来例の動作を示す平面図である。

【図11】 従来例の動作を示す側面図である。

【図12】 従来例の動作を示す平面図である。

【符号の説明】

1…修正テープ

1a…修正剤

10…本体ケース

20…転写ヘッド

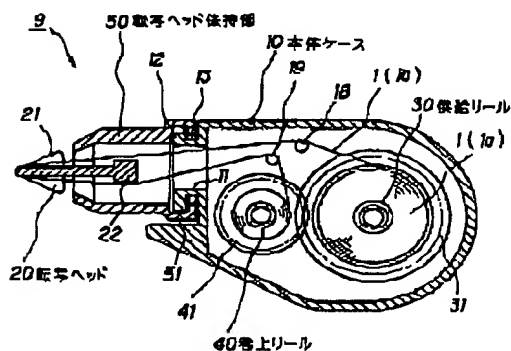
30…供給リール

40…巻上リール

50…転写ヘッド保持部

【図1】

図1



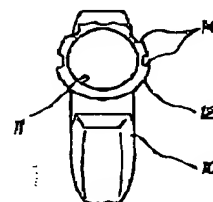
【図9】

図9



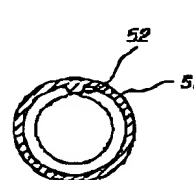
【図2】

図2



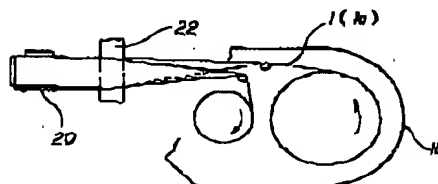
【図3】

図3



【図4】

図4

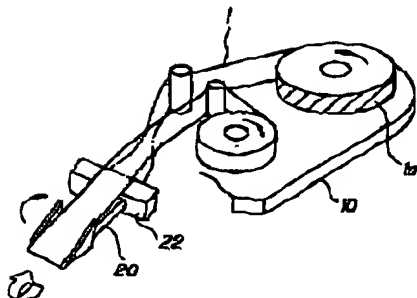


(3)

実開平6-73026

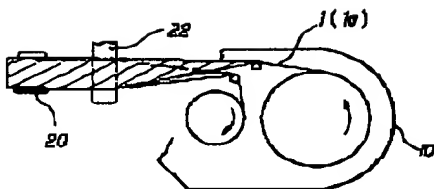
【図5】

図5



【図6】

図6



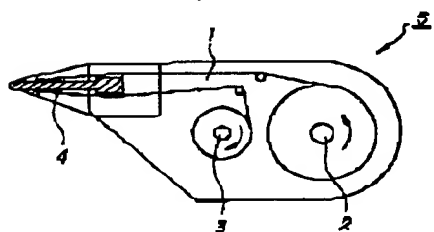
【図10】

図10



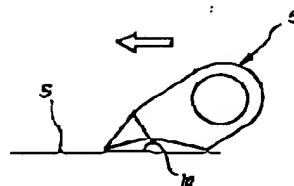
【図8】

図8



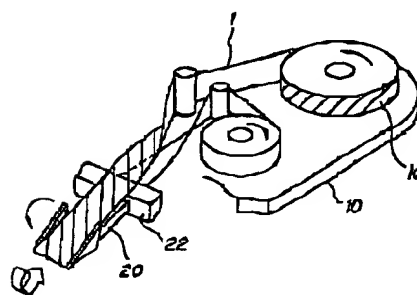
【図11】

図11



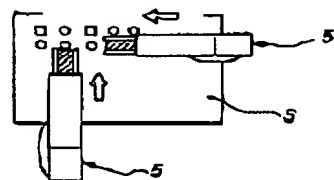
【図7】

図7



【図12】

図12



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、修正テープに貼付された修正剤を紙面などに貼りつけるための修正テープの貼付具に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、消しゴムで消去できない、ボールペン等の誤記修正具として白色液体を塗布して隠蔽する場合や、シールを用いて誤字上に転写するものがあったが、液体は再筆記できるまでその乾燥を待たなければならず、またシールは修正箇所の大きさに対して適当なシールの選択などの手間のかかる点が多かった。

【0003】

そこで、図8、9に示されるように、修正剤1aを細いフィルム状のリボンの片面に固着させた修正テープ1を、供給リール2により連続で繰り出し、巻上げリール3で巻き取りながら転写ヘッド4で紙S等に押付けつつ摺動させることで、修正テープ1の修正剤1aを所望の箇所に所望の長さで貼りつけて修正できる貼付具5がある。

【0004】

ところが、この種の貼付具における転写ヘッドは、従来、図8に示すようにケース本体6に基端を固定されて設けられるか、あるいは特開昭63-56690号公報に示されるように、押圧方向に対して横方向にのみ揺動自在となっていた。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

このため、このような従来の修正テープの貼付具は、使い易さの点で改善すべき問題点を有していた。

すなわち、通常の修正は図9、10の矢印に示すような方向（順方向）に動かすことで行なうが、例えば修正しようとするものが横書きの文字列である場合、貼付具5をその文字列に平行に動かす必要があるため、紙Sを回転あるいは移動

させて貼付具 5 をまっすぐに動かし易い位置及び角度にその文字列を位置決めしなければならない。そうしなければ、貼付具 5 を持って動かす使用者は、肘を横に張出すような無理な姿勢で貼付具 5 を左右方向（横方向）に動かさなければならない。

【0006】

したがって、特に修正箇所が長い場合には、非常に無理な姿勢で貼付具を動かすか、あるいは、筆記や読取りを行なう通常の紙面の位置角度とは異なる位置角度に紙 S を動かして修正終了後またもとに戻すという作業が必要になり、きわめて面倒で作業者を短時間で疲労させていた。なお、程度の差こそあれ、同様の問題は横書きの文字列に限らず生じていた。

また、貼付具 5 を順方向に動かして修正する場合には、修正箇所が貼付具自体で隠され修正しづらい欠点もある。

【0007】

一方、貼付具 5 の使用方法としては、図 11, 12 の矢印に示す方向（逆方向）に貼付具 5 を移動させる方法もある。この場合、貼付具 5 に修正箇所が隠される不具合は解消されるが、紙面を動かすかあるいは無理な態勢で貼付具を操作しなければならないという不具合は解決できない。

【0008】

また、従来の貼付具であると、前記順方向による使用方法から逆方向による使用方法に切り換えるためには、貼付具本体を握り直さなければならないという問題や、本体ケース 1 の形状を例えばきき腕が右の作業者を想定して設計した場合、左ききの作業者には使いづらい形状になってしまうという問題点もあった。

【0009】

本考案は、このような従来の技術が有する問題点に着目してなされたもので、筆記等を行なう通常の状態に対して紙面等の位置、角度を大きく変えずに、正確な修正が自然な姿勢で容易にできる修正テープの貼付具を提供することを目的としている。

【0010】

【課題を解決するための手段】

かかる目的を達成するための本考案の要旨とするところは、

修正テープ（１）に貼付された修正剤（１ａ）を紙面などに貼りつけるための修正テープの貼付具であって、

本体ケース（１０）と、

該本体ケース（１０）の一端側に先端を突出させて設けられ、修正テープ（１）を紙面などに向って押圧するために、前記先端に修正テープ（１）が折返状に巻回される転写ヘッド（２０）と、

前記本体ケース（１０）に収納され、胴部に巻き付けられた修正テープ（１）を前記一端側に繰り出して前記転写ヘッド（２０）に供給する供給リール（３０）と、

前記本体ケース（１０）に収納され、前記供給リール（３０）に運動して回転して、前記転写ヘッド（２０）により紙面などに押圧された修正テープ（１）を胴部に巻き取る巻上リール（４０）とを備え、

前記本体ケース（１０）の一端側には、前記転写ヘッド（２０）をねじる方向に角度変更可能な転写ヘッド保持部（５０）が設けられ、前記転写ヘッド（２０）は基端側において前記転写ヘッド保持部（５０）に取り付けられていることを特徴とする修正テープ（１）の貼付具に存する。

【００１１】

【作用】

本考案の修正テープ（１）の貼付具では、本体ケース（１０）の一端側には、転写ヘッド（２０）をねじる方向に角度変更可能な転写ヘッド保持部（５０）が設けられ、転写ヘッド（２０）は基端側において前記転写ヘッド保持部（５０）に取り付けられているから、前記転写ヘッド保持部（５０）の角度を変えて、転写ヘッド（２０）のねじり方向の角度を適宜変更することができる。

【００１２】

このため、転写ヘッド（２０）の向きのみを本体ケース（１０）の向きと無関係にねじらせて修正する文字列等の方向に合わせることが可能となり、修正しようとする紙面等の位置角度にかかわらず、使用者にとってなるべく好ましい本体ケース（１０）のねじり角度を維持しながら、所定の方向に転写ヘッド（２０）

を摺動させて必要な修正を行なうことができる。

【0013】

また、転写ヘッド(20)の角度を180°転換させれば、同一の握りで前述の順方向の使用態様から逆方向の使用態様に切り換えることが可能となるとともに、本体ケース(10)の形状に握り易さを考慮した方向性がある場合には、左右いずれの手を使用するかにかかわらず、その形状の特性をいかした角度で本体ケース(10)を握ることができる。

【0014】

【実施例】

以下、図面に基づき本考案の一実施例を説明する。

本実施例の修正テープの貼付具9は、図1に示すように、本体ケース10と、該本体ケース10の一端側に先端を突出させて設けられ、修正テープ1を紙面などに向って押圧するために、その先端に修正アープ1(修正剤1aが片面に貼付されたもの)が折返状に巻回される転写ヘッド20と、本体ケース10に収納され、胴部に巻き付けられた修正テープを前記一端側に繰り出して転写ヘッド20に供給する供給リール30と、本体ケース10に収納され、供給リール30に連動して回転して、転写ヘッド20により紙面などに押圧された修正テープ1(通常修正剤1aが剥がれたもの)を胴部に巻き取る巻上リール40と、本体ケースの一端側に取り付けられ転写ヘッド20を保持する転写ヘッド保持部50とを備える。

【0015】

本体ケース10は、側面形状が転写ヘッドの突出方向(修正テープの繰出方向)に直交する方向において非対称とされることによって、握り易く設計されたもので、一端側に修正テープを繰り出しあるいは引き入れるための開口11が前記突出方向に沿って形成されている。この本体ケース10の一端側(前記開口11の外縁部)には、図1、2に示す如く、環状凸部12とこの環状凸部12の内側に隣接する環状凹部13とが、前記突出方向に順次形成されている。

【0016】

そして、環状凸部12は、図2に示す如く、略180°にわたる範囲(図2に

おける上側の半円部)の外径が、残りの略 180° にわたる範囲(図2における下側の半円部)の外径よりも若干小さく設定され、しかもこの小径な範囲には、この場合略 45° ピッチで台形の切欠14が5個形成されている。なお、本体ケース10内には、繰り出される修正テープ1あるいは引き込まれる修正テープ1の移動経路を規制する摺接ピン18、19がそれぞれ設けられている。

【0017】

転写ヘッド保持部50は、先端側が転写ヘッド20の中程を覆うようにテーパ状とされた筒状のもので、基端側において本体ケース10の一端側に取り付けられ、前記突出方向に伸びるように配設されて、転写ヘッド20をねじり角度変更自在に保持している。すなわち、この転写ヘッド保持部50の基端側には、図1に示す如く、本体ケース10の前記環状凸部12の外周及び環状凹部13内に摺動回転自在に嵌り込む、断面がコ字状の環状嵌合部51が形成され、この環状嵌合部51と前記環状凸部12及び環状凹部13の係合により、転写ヘッド保持部50は本体ケース10にねじり回転自在に取り付けられている。しかも、この環状凹部13の内面には、図3に示すごとく、前記本体ケース10の環状凸部12における切欠14に係合するとともに、前記環状凸部12における小径な範囲を弾力的に乗り越えることができる台形状の突起52が一つ形成されている。

【0018】

転写ヘッド20は、両側に修正テープを案内するガイド板21が形成された周知の先端側構成を有するものであるが、基端側には、この場合両側(図1において紙面に直交する方向)に伸びる支持部22が形成され、この支持部22の両端が転写ヘッド保持部50の内面に固定されることで、転写ヘッド保持部50に固定状態に取り付けられている。

【0019】

また、供給リール30あるいは巻上リール40の外周には、それぞれの胴部とは軸方向にずれた位置に互いに噛み合うギア31、41が形成され、これにより供給リール30と巻上リール40とが連動する構成とされている。

【0020】

なお、転写ヘッドの先端形状、あるいは供給リール30と巻上リール40の連

動機構等は周知の各種構成が適用できることはいうまでもない。また、修正テープを常に緊張させた状態で巻き取るためには、巻き取り抵抗の少ない状態では供給リール30の繰り出し速度よりも巻き取り速度の方が大きくなるように巻上リール40が速く回転し、修正テープが緊張して巻き取り抵抗が大きくなったときには巻上リール40がすべるといった動作が必要となるが、このような動作を実現するために、上記ギア比を適当に設定するとともに例えば巻上リール40にすべり機構を設けてもよいし、特公平3-66159号公報に示されるような構成を採用することもできる。

【0021】

次に作用を説明する。

転写ヘッド20を紙面等における修正箇所の端に押付け他端に向って摺動させると、修正テープ1が供給リール30より出て、摺接ピン8を経て転写ヘッド20へ出る。転写ヘッド20により修正箇所に押付けられつつ摺動する修正テープ1における修正剤1aは、紙面との摩擦により修正テープ1の基材より剥がれて連続的に紙面に転写される。この際、修正剤の剥がれた修正テープは、摺接ピン9を経由し、前述したギア31、41とスリップ機構等の作用によって常に緊張した状態で巻上リール40により巻き取られる。

【0022】

ところで、転写ヘッド20は転写ヘッド保持部50を回転させることで、ねじり方向に角度変更可能なので、上記修正操作は、修正箇所の向き等にかかわらず、本体ケース10のみを使用者にとって好ましいねじり方向の角度に設定して行なうことができる。すなわち、前記転写ヘッド保持部50を本体ケース10に対してねじると、一定のねじり力に達したところで前記突起52がいずれかの切欠14に係合している状態から環状凸部12の外周に乗りあげて転写ヘッド保持部50が回転するので、前記突起52が再度別の切欠14に係合するまでねじり続ければ、この場合略45°ピッチで転写ヘッド保持部50（すなわち転写ヘッド20）の角度を変えることができる。

【0023】

なお、前述したように、前記環状凸部12における切欠14が形成されてい

い側が若干大径とされていることは、突起52の乗り上げを不能にすることで転写ヘッド保持部50の過大な回転を阻止するように作用し、この場合転写ヘッド保持部50（すなわち転写ヘッド20）のねじり回転範囲は略180°に規制される。

【0024】

このように、上記貼付具9によると、前記転写ヘッド保持部50の角度を変えることで、転写ヘッド20のねじり方向の角度を略180°の範囲で適宜変更することができる。例えば、図4、5に示すごとく、転写ヘッド20の押圧面が本体ケース10の側面と平行でかつ修正テープ1の繰出側（修正剤1aがある側）が本体ケース10の右側面側（図4において向こう側）にある状態から、転写ヘッド保持部50を180°回転させることで、図6、7に示すごとく、転写ヘッド20の押圧面が本体ケース10の側面と平行でかつ修正テープ1の繰出側（修正剤1aがある側）が本体ケース10の左側面側（図6において手前側）にある状態に切り換えることができる。

【0025】

このため、転写ヘッド20の向きのみを本体ケース10の向きと無関係にねじらせて修正する文字列等の方向に合わせることが可能となり、修正しようとする紙面等の位置角度にかかわらず、使用者にとってなるべく好ましい本体ケース10のねじり角度を維持しながら、所定の方向に転写ヘッド20を摺動させて必要な修正を行なうことができる。

【0026】

また、転写ヘッド20の角度を180°転換させれば、同一の握りで前述の順方向の使用態様から逆方向の使用態様に切り換えることが可能となるとともに、左右いずれの手を使用するかにかかわらず、握り易さを考慮した本体ケース10の形状の特性をいかした角度で本体ケース10を握ることができる。

【0027】

【考案の効果】

本考案にかかる修正テープの貼付具によれば、本体ケースに対する転写ヘッドのねじり方向の角度を変えることができるので、紙面等の位置を変えることなく

使用者にとって自然な腕の姿勢で正確に転写ヘッドを修正箇所に沿って移動させることができる。

【0028】

また、転写ヘッドの角度を180° 転換させれば、同一の握りで前述の順方向の使用態様から逆方向の使用態様に切り換えることが可能となるとともに、本体ケースの形状に握り易さを考慮した方向性が有る場合には、左右いずれの手を使用するかにかかわらず、その形状の特性をいかした角度で本体ケースを握ることもできる。

したがって、貼付具の保持性が良好となり、修正作業の能率が向上する。